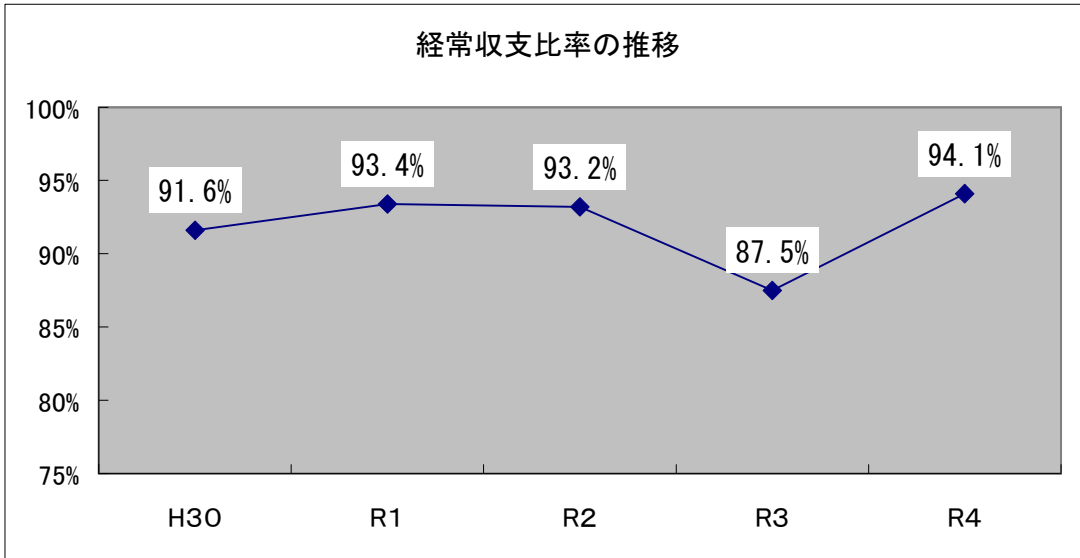


経常収支比率

財政構造の弾力性を判断するための指標で、地方税・普通交付税を中心とする毎年度経常的に収入される一般財源（経常一般財源）が、人件費（職員給など）・扶助費（医療費助成など）・公債費（借金の返済）のように、毎年度経常的に支出される経費（経常的経費）にどの程度充当されているかという割合を示すものです。

この数値が高いほど、経常的に歳入される一般財源に余裕がないことを示しています。

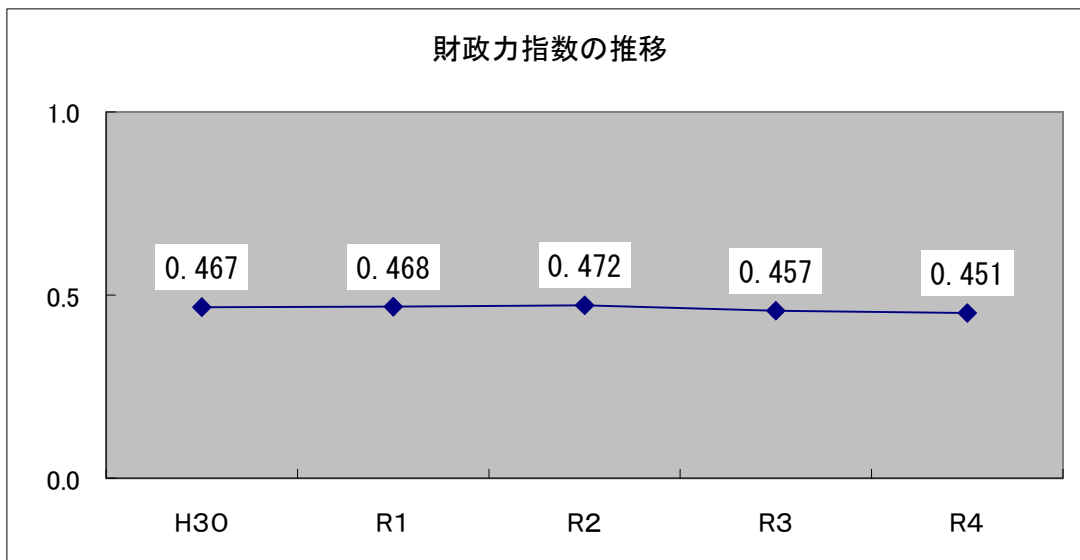
数値が低いほどよい。県内19市町では11位。



財政力指数（3か年平均）

基準財政収入額を基準財政需要額で割って得た数値の過去3か年の平均値のことで、国が各種財政援助措置を行う場合の財政力の判断指数とされているものです。1に近いほど財源に余裕があるとされ、単年度で1を超える地方公共団体は普通交付税の不交付団体となります。

数値が高いほどよい。県内19市町では12位。



これまでの数値は、すべて普通会計ベースのものであります。

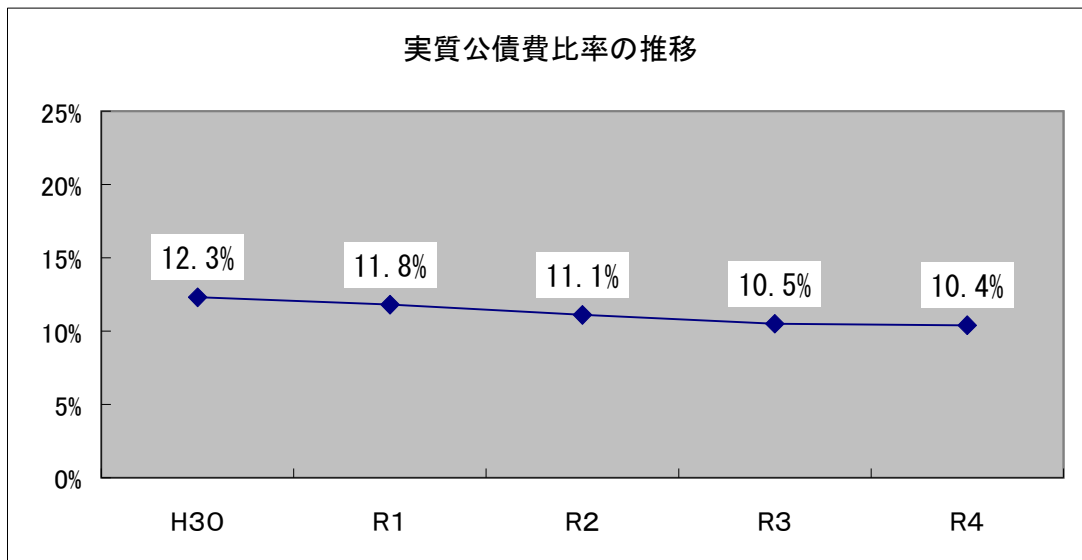
普通会計とは、地方公共団体間の比較や時系列比較が可能となるように地方財政統計上、統一的に用いられる会計区分で、全会計から公営企業事業を除外したものです。田布施町では、一般会計だけが該当します。

普通会計は一般会計や特別会計のように法律で規定されているものではありませんが、公債費比率や経常収支比率など地方財政の計数は、一般的に普通会計決算の数値が用いられています。

実質公債費比率（3か年平均）

「実質公債費比率」とは、町税や地方交付税など毎年決まって入るお金（経常的な収入）に対して、借入金（町債など）の返済金（公債費など）がどの程度の割合になるか、いわば町の借金返済の負担が多すぎないかチェックする指標です。その目安を国は「18%」としています。

数値が低いほどよい。県内19市町では17位。



町債（借入金）現在高

町債とは、主に町が建設事業を行うにあたり、特に一時に多額の資金を必要とするときに、外部（政府・地方公共団体金融機構・銀行など）から資金を調達するもので、長期的な借入金です。

令和4年度末現在の町債現在高 95億6,363万円

町民1人当たりの借入金額 66万1,751円

（令和5年3月31日現在の住民基本台帳人口：14,452人）

